

【温州みかん】

施肥 3月中下旬

○特選みかん配合 655 160kg/10a 施肥後、軽く中耕を行いましょう。

※特選みかん配合 655 には 微量要素 が含まれています。

数年に一度は微量要素欠乏対策の為、特選みかん配合 655 を使用しましょう。

石灰資材の施用

○顆粒タイニー 又は 苦土タンカル 200kg/10a

石灰資材をここ数年施肥していない園(又は、1～2月に石灰資材を施用していない園)では、根の活動が低下し、養分の欠乏をひきおこす可能性があるため必ず施用し中耕しましょう。

尚、春肥とは最低でも2週間以上あけてください。

病害虫防除 3月中下旬

○かいよう病・そうか病対策

病斑のある枝葉は、新葉が出てくるときに感染源となるので、剪定時に取り除いて園内から持ち出し病原菌の密度を低くしましょう。

○かいよう病

コサイド 3000 1,000倍 100g/100ℓ (クレフノン 200倍 500g/水 100ℓ加用)

※マシン油乳剤と混用散布は避け、近接散布は最低2週間以上あけましょう。

※温州みかん園に中晩柑類(ネーブル・レモン等)が混植されている場合には防除を必ず行いましょう。

※この時期に散布できなかった園は、4月上中旬に下記を散布しましょう。

コサイド 3000 2000倍 50g/水 100ℓ (クレフノン 200倍 500g/水 100ℓ加用)

又はイデクリン水和剤 500倍 200g/水 100ℓ (クレフノン 200倍 500g/水 100ℓ加用)

【中晩柑】

不知火・はるみの剪定

主枝先端を明確にして、直径1cmぐらいのところを切り返し、予備枝(坊主枝)を作り、新梢を発生させ樹勢の維持を行います。

翌年の結果母枝の確保のため、鉛筆位の太さの予備枝(坊主枝)を、垂主枝に対して1本設けましょう。

はるみは主枝先端部の切り返しを強めに行い、不知火はやや強めの切り返しにとどめる。はるみ程強く切り返す必要はない。

施肥 特選みかん配合 655 140kg/10a 施肥後に軽い中耕を行う。

病害虫防除

はるみ・レモン・ネーブル等は、かいよう病に罹病し易いので、湘南ゴールドの項を参照に防除して下さい。

『デコボン』の名称について

デコボンの名称は、熊本県果実連の登録商標です。糖酸度に関係なく個人販売、JA直売所において

『デコボン』の名称で販売できません。「不知火」の名称で販売してください。

【湘南ゴールド】 *下線が引いてあるものは重要防除です。必ず防除を行いましょう。

選果

湘南ゴールド 階級	2S	S	M	L	2L
横径 (mm)	40~45	46~50	51~55	56~61	62~67
温州みかん 規格	4S	3S	2S	S	M

*規格板は営農経済センターで取り扱い中です

剪定

温州みかんと同じ開心自然型とします。しかし、温州みかん同様の剪定では強すぎるため、主枝や亜主枝を竹などで開張し、逆行枝、側枝の重なり枝の間引き剪定と下垂枝の切り返し程度に控え、樹冠内部に光が入る様にしましょう。

結実し始めた樹は弱剪定で樹形が乱れているので、剪定量を増やし樹形を徐々に改善しましょう。

施肥

3月中下旬 特選みかん配合 655 140 kg/10a 施肥後に軽い中耕を行う。

収穫後

〇かいよう病 (収穫後)

ICボルドー66D 100倍 1,000ml/100ℓ (アピオンE 1,000倍 100ml/100ℓ加用)

又はムッシュボルドーDF 1,000倍 100g/100ℓ (クレフノン 200倍 500g/100ℓ加用)

発芽前であればアピオンE、クレフノンの加用の必要はない。

※病斑のついた枝は剪定時に園外へ持ち出す。ICボルドー66Dはマシン油との散布間隔は 14 日以上開ける。

【レモン】

整枝剪定

特に若木は樹勢が強く花芽が付きにくいので、樹勢が落ち着くまでの整枝剪定は、整枝を主体とし、徒長枝や混み合う枝の間引きを軽く行う程度とする。また、花芽が着く春枝の先端は切り返さない。枝は立ち性で太く放置すると高くなるので、枝を下げ誘引する。

樹勢が落ち着いてきたら、徐々に剪定量を増やし、開心自然形にしていくが、樹勢が強いため、過度の剪定は徒長枝が多発し結果しなくなるので注意が必要です。樹幹内の枯れ枝は黒点病防除のため、常に除去するように心がける。

春肥施用 (3月中旬頃)

特選みかん配合 655 160kg/10a 施肥後、軽く中耕を行う。

収穫後

かいよう病 ICボルドー66D 100倍 1ℓ/水 100ℓ (アピオンE 1,000倍 100ml/100ℓ加用)

又はムッシュボルドーDF 1,000倍 100g/水 100ℓ (クレフノン 200倍 500g/100ℓ加用)

※発芽前であればアピオンE、クレフノンの加用は必要ない。

農薬を使用する際は、適用作物・希釈倍数・使用回数・使用方法等の使用基準を遵守するとともに飛散防止に努め、ラベルをよく確認し、必ずラベルに基づいて使用しましょう。